

二分の一成人式への取組

～家の人に感謝の気持ちを届けよう～

教科・領域 総合的な学習の時間

上関町立上関小学校 4 学年

キャリア教育の観点

二分の一成人式という節目の行事を通して、保護者の励ましや支えによって、「できること」が増えてきたことに気づき、自分が成長していることを実感するとともに、自分自身の可能性を肯定的にとらえ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力を育てる活動です。

【自己理解・自己管理能力】

当日までの準備

児童が自分の成長を保護者に見てもらうことを目標として、どのような発表がふさわしく、また実現可能かを考えて、当日の発表内容や事前の準備に当たるようにさせた。

準備にあたっては、実行委員会を中心にしながら、主に次のような点について児童が主体的に計画・進行できるよう支援を行った。

- 当日までの準備スケジュールの検討・作成
- 発表内容の検討・決定
- 役割分担の調整・決定
- 準備物の製作

担任は、児童に「こんなことができるようになったよ」というキーワードを常に意識させることに留意して、式当日だけでなく準備段階から児童の取組を「自分の成長」という観点から価値付けるようにした。2学期の学習発表会において「葉っぱのフレディ」「命のバトン」等を題材として、命の大切さとながりをテーマに学年発表を行っており、そこで学んだことが自分と家族との関係にもつながっていることも折に触れて意識させてきた。

また、これと並行して保護者の協力の下、児童が、生まれてからこれまでの成長の様子がわかる数枚の写真を選び、写真についてのコメントとともに、将来の夢を書き込んだパネルを作成することにも取り組んだ。

<児童の様子>

児童は、上学年への入り口に立つにしてはやや幼い言動が見られ、人間関係を調整する力も十分に育っていない面がある。しかし、自分の成長を保護者にしっかりと見てほしいという思いは取組の当初から高く、発表内容の検討を始め、グループ毎の自主練習や休み時間を使っての自主的な準備物の製作など、積極的に協力しながら準備を進めていった。

プログラム

- ・ 始めのことは
- ・ 校長より、担任より
- ・ 二分の一成人証書授与
- ・ 器楽演奏
- ・ 「できるようになったこと」発表
(ピアノ演奏、ダンス、劇)
- ・ 合唱
- ・ 保護者への手紙
- ・ 終わりのことは

二分の一成人式当日

○二分の一成人証書授与

教室の後方で保護者が見守る中、担任が一人ひとりの児童に合わせた内容の言葉を入れて作った証書を手渡した。児童のよさを取り上げ、それを成長の証として価値付けるような言葉を盛り込んで製作している。

○「できるようになったこと」の発表

児童にとっては、最も力を入れて準備してきた発表である。楽器の演奏やダンス、劇など、どの児童も練習を重ねて当日に臨んだ。

保護者に対して「成長の証」を示すという目標を掲げ、意識付けをしてきたことにより、自分のできることをしっかりと見てほしいという願いが反映されていた。保護者だけでなく担任や友達も驚くような一面を見せた児童もいた。

○保護者への手紙

自分がどれだけ成長したかを語り、感謝の気持ちを表す文を手紙にしたためて、保護者の前で読んで、手渡した。どの子も素直に気持ちを表しており、思わず涙ぐむ保護者が続出した。児童にとっては手紙を書くことにより成長と感謝をより明確に自覚することができ、保護者にとっては子どもの成長を実感するよい機会となった。



式後の取組

式を終えての感想を児童に書かせ、これまで作成した写真パネルや、式当日の写真、寄せ書きなどと一緒に綴じて「祝 二分の一成人式 私の10年間」と名付けたファイルにまとめさせた。まとめる過程でこれまでの学習を振り返らせ、自分の成長を実感しさらに成長していきたいという思いを強くするよう促した。

<児童の様子>

最後の感想では、ほとんどの児童が「練習の成果が出てうまくできたのでよかった」という自分の努力に対する満足感を表していた。また「最初はばらばらでまとまらなかったが、最後は一つになれた」と、友達との協力で満足感をもつ児童もいた。保護者への手紙については、「気持ちを伝えることができたことがうれしい」「親が真剣に聞いてくれた」などを「感動した」という言葉を付して表した児童が多数いた。

考察・課題

<自分の成長への気付きと実感について>

児童が自分の成長を保護者に見てもらふことを活動の中心に置くことで、「成長」という切り口から自分自身をある程度客観的に見る経験をさせることができた。過去の自分や自分に影響を与えた出来事などを振り返る経験を通して、児童は自分の特徴をとらえることができたのではないかと思う。

また、小さい頃の様子を尋ねる学習や、実際に家族に向かって発表したり手紙を渡したりする体験を通して、10年間で成長してきたことを実感させることができたと思う。

<自身の可能性を肯定的にとらえ、成長のために進んで学ぶ姿勢について>

家族との話や成長の過程をまとめる活動を通して、保護者の支えによって「できること」が増えてきて現在の自分があることに気づき、感謝の気持ちをもつとともに自分の存在を価値あるものと感じさせることができた。またそれを受けて、抽象的ではあるが将来に向かっての成長の意欲を引き出すこともできた。

課題としては、児童が上学年に向けてより具体的な将来の夢をもてるような手立てを、計画的に講じていくことが必要であるため、他の学年での体験的な活動との関連付けをより明確にしていくことがあげられる。

全体計画との関連

キャリア教育全体計画（抜粋）

キャリア教育によって育む児童像

- ・自分や上関町の将来について、多面的なもの見方で展望を抱くことができる子
- ・より広範囲の人とネットワークをつくり、自分の必要な情報を得ることができる子
- ・自分の特性などを理解し、自分を肯定的に認め、よりよい自分をめざす子

他者の支えや励ましを感じて、自分の可能性を肯定的にとらえる

指導目標

学校・家庭・地域のひと・もの・ことに学び、豊かなかかわり合いを通して、社会性や協調性、感性を育み、夢と希望をもって生き生きとした生活を創造していこうとする意欲や態度を育てる。

- 自他の良さを互いに認め合い、ともに高め合おうとする態度を育てる。
- いろいろな職業について学び、働くことのすばらしさを感じる心を育てる。
- 自ら進んで活動し、日々の生活をよりよくしていこうとする心情を養う。
- 目標を持って努力し、自ら課題を解決していく態度を育てる。

学習全体を通して成功体験を積み、自分の成長を実感する

重点目標

※ A「自分がしたいこと」 B「自分ができること」 C「社会が求めていること」

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
B 自分や友達のよさを見つける A 身近なところで働く人に関心をもつ C 家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性がわかる A 自分の好きなもの・大切なものをもつ B 自分のことは自分で行おうとする		B 友達のよいところを認め励まし合う C 働くことの大切さに気づく C 係や委員会などの当番活動に積極的に取り組む A 働くことの楽しさや、人のために役立つことの喜びを知る B 自分のやりたいこと、よいと思うことを考え進んで取り組む C 自分の仕事や役割に対して責任を感じ最後までやり通す		B 自分や友達のよさを見つける A 身近なところで働く人に関心を持つ C 家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性がわかる A 自分の好きなもの・大切なものをもつ B 自分のことは自分で行おうとする	